

青変症が発生しにくい秋冬ダイコン遅播き作型向け 有望品種「TC12-27」の選定

1 背景・目的

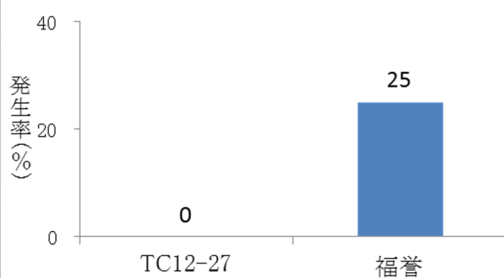
秋冬ダイコンの遅播き作型の既存品種である「福誉」は、根部の肥大、揃いが良いが、出荷後に内部が青く変色することが問題となっている(写真1)。そこで、根部の肥大の良さ等に加え、出荷後の青変症が発生しにくい品種を選定する。

2 技術のポイント

- (1)「TC12-27」は、収穫後に青変症が発生しやすいとされる20℃前後の温度で保存しても青変症の発生が見られない(図、写真2)。
- (2)「TC12-27」は標準品種と比べて根重の揃いはやや劣るが、根部の肥大や尻づまりは同等である(写真2、表)。



写真1 福誉に発生した青変症



青変症発生率は収穫後、温度 20℃で5日間処理後に調査



写真2 TC12-27の外観(左)及び20℃で5日間処理後の切断面(右)

表 収穫時の状況

品種名	根長 (cm)	根径 (mm)	葉重 (g)	根重		曲がり 程度	尻づまり 程度
				(g)	(CV)		
TC12-27	34	69	303	1,032	27%	15	20
福誉	36	72	255	1,120	15%	9	19

①「TC12-27」は63日目、「福誉」は62日目に各18個体を調査

②曲がりの発生指数:0(無)~3(甚) 尻づまり指数:0(良)~3(不良) 程度 = $\sum(\text{指数} \times \text{個体数}) \div (3 \times \text{全調査個体数}) \times 100$

③根重のCVは(標準偏差/平均値)を指し、値が低いほど揃いが良い ④t検定により根長、根径、葉重、根重は有意差なし(P<0.05)

3 成果の活用と残された問題点

産地において問題となっている青変症が発生しにくいことが確認されたため、平成27年度は県内ダイコン産地において試作を予定している。

問合せ先：砂丘地農業研究センター TEL 076-283-0073

担当者：北口博之・増田大祐